

各学科等の教育

■ 入学者に関する受け入れ方針

東洋理容美容専門学校の教育理念に基づいた人材育成を行うために、教育を受けるにふさわしい学力と倫理観を備えるとともに、創造力に富み、向学の精神を有する学生を受け入れることを目指す。

■ 入学定員及び収容定員

課程名	学科名	昼夜の別	修業年限	入所時期	入学定員	収容定員
衛生専門課程	理容科	昼間	2年	4月	40名(1学級)	80名
衛生専門課程	美容科	昼間	2年	4月	240名(6学級)	480名
衛生専門課程	美容修得者理容科	昼間	1年	4月	20名(1学級)	20名
衛生専門課程	理容修得者美容科	昼間	1年	4月	20名(1学級)	20名

■ 学生データ

学科名	令和4年入学者(1学年)					令和3年入学者(2学年)		
	入学者数 (男/女)	推薦入学者数		一般入学者数		入学者数 (男/女)	進級者数 (男/女)	中退者数 留年者数
		現役生	既卒者	現役生	既卒者			
理容科	12 (10/2)	3	0	6	3	24 (20/4)	22 (19/3)	2 0
美容科	213 (62/151)	60	0	148	5	237 (68/169)	216 (58/158)	22 0

※美容修得者理容科、理容修得者美容科は在籍なし

学科名	令和4年3月卒業生				
	入学者数 (男/女)	卒業者数 (男/女)	就職希望者数 (男/女)	就職者数 (男/女)	専門職への就職者数 (男/女)
理容科	15 (11/4)	15 (11/4)	15 (11/4)	15 (11/4)	15 (11/4)
美容科	148 (41/107)	139 (38/101)	136 (37/99)	133 (37/96)	133 (37/96)

※美容修得者理容科、理容修得者美容科は在籍なし

※ 就職地域、主な就職先、就職サポートはこちらから

<https://www.toyoribi.ac.jp/career.html>

■カリキュラム、進級・卒業の要件等（学則抜粋）

第4章 教育課程、学年の課程修了の認定及び卒業等

（教育課程及び授業時数）

第18条 本校の教育課程及び授業時数は、別表第1のとおりとする。

2 別表第1に定める授業時数の1単位時間は、50分とする。

3 授業時数を単位数に換算する場合の計算方法は30時間をもって1単位とする。

（課程修了の認定）

第19条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。

（卒業）

第20条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。

2 前項において、専門課程理容科、専門課程美容科を修了した者には、専門士（衛生専門課程）の称号を授与する。

（原級留置）

第21条 生徒のうちで当該学年における所定の教育課程を修了することができなかった者について、教育上必要があるときは、原級に留め置くことができる。

（在籍期間）

第22条 前条の規定により生徒を原級に留め置き卒業が延期された場合の在籍期間は、専門課程においては入学から3年間、通信課程においては入学から6年間を限度とする。ただし、校長の許可を得た休学の期間は在学年数に算入しない。

(別表第1) 教育課程及び授業時数

＜衛生専門課程 理容科＞

課 目		内 容	時間数(単位数)	
必 修 課 目	関係法規・制度	理容業に関する法律や制度の意義、内容を学び、理容師として働く際の社会的責任や心構えを養います。	30 (1 単位)	
	衛生管理	感染症や衛生管理の知識を習得し、公衆衛生の重要性を理解するとともに、実際に使用する器具の消毒方法を学びます。	90 (3 単位)	
	保健	皮膚や毛髪、人体の構造と機能などに関する専門知識を、実際の理容・美容技術に関連させて理解していきます。	90 (3 単位)	
	化粧品化学	化粧品、薬剤などを正しく安全に取り扱うために必要な化粧品化学の知識を学習します。	60 (2 単位)	
	文化論	理容・美容の歴史やファッションの変遷を学び、デザインや色彩学などを通じて美的センスと豊かな表現力を養います。	60 (2 単位)	
	理容技術理論	理容器具の種類や正しい使用方法を理解し、実践の作業に即して理容の技術理論を学びます。	150 (5 単位)	
	運営管理	経営管理の理論や接客など、サロン経営に必要な専門知識を学び、これらを実践するための力を身につけます。	30 (1 単位)	
	理容実習	理論をふまえた上で、カット、シャンプー、シェービング、ワインディングなど基礎から応用まで幅広く技術を身につけます。	900 (30 単位)	
選 択 必 修 課 目	一 般 教 養	芸術	優れた芸術作品に親しみ、鑑賞する能力を身につけ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養います。	30 (1 単位)
		外国語	英語の基礎的会話能力を身につけ、語学学習を通じて外国の文化、生活習慣などに関する理解を深めます。	30 (1 単位)
		色彩学	色彩の見え方や補色、さまざまな視覚効果を通して、それらがファッションやデザインの分野でどのように活かされているかを学びます。	30 (1 単位)
	専 門 教 育	接客法	理容業における接客の意義と技術について具体的事例を挙げながら学びます。	60 (2 単位)
		トータル・ケア	ネイルケア、エステティック、ヘッドスパなどトータルなケア技術を習得します。	120 (4 単位)
		総合技術	必修課目において習得した基礎技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につけます。毛髪技能検定取得も目指します。	180 (6 単位)
		国家試験対策	カット、シェービング、セットの国家試験課題をマスターし、すべて技術が国家試験の手順通りに衛生的に行えるようにします。	90 (3 単位)
	コ ー ス	スタイリスト サスーンカット エステ 着付け	必修課目において習得した基礎技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につけ、それぞれのコースで認定資格取得を目指します。	60 (2 単位)
合 計			2,010 (67 単位)	

<衛生専門課程 美容科>

課 目		内 容	時間数(単位数)	
必 修 課 目	関係法規・制度	理容業に関する法律や制度の意義、内容を学び、理容師として働く際の社会的責任や心構えを養います。	30 (1 単位)	
	衛生管理	感染症や衛生管理の知識を習得し、公衆衛生の重要性を理解するとともに、実際に使用する器具の消毒方法を学びます。	90 (3 単位)	
	保健	皮膚や毛髪、人体の構造と機能などに関する専門知識を、実際の理容・美容技術に関連させて理解していきます。	90 (3 単位)	
	化粧品化学	化粧品、薬剤などを正しく安全に取り扱うために必要な化粧品化学の知識を学習します。	60 (2 単位)	
	文化論	理容・美容の歴史やファッションの変遷を学び、デザインや色彩学などを通じて美的センスと豊かな表現力を養います。	60 (2 単位)	
	美容技術理論	美容器具の種類や正しい使用方法を理解し、実践の作業に即して美容の技術理論を学びます。	150 (5 単位)	
	運営管理	経営管理の理論や接客など、サロン経営に必要な専門知識を学び、これらを実践するための力を身につけます。	30 (1 単位)	
	美容実習	理論をふまえた上で、カット、カラーリング、ワインディングなど基礎から応用まで幅広く技術を身につけます。	900 (30 単位)	
選 択 必 修 課 目	一 般 教 養	芸術	優れた芸術作品に親しみ、鑑賞する能力を身につけ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養います。	30 (1 単位)
		外国語	英語の基礎的会話能力を身につけ、語学学習を通じて外国の文化、生活習慣などに関する理解を深めます。	30 (1 単位)
		色彩学	色彩の見え方や補色、さまざまな視覚効果を通して、それらがファッションやデザインの分野でどのように活かされているかを学びます。	30 (1 単位)
	専 門 教 育	接客法	美容業における接客の意義と技術について具体的事例を挙げながら学びます。	60 (2 単位)
		トータル・ビューティー	エステティック、メイク、ネイル、アップなどトータル・ビューティー技術を習得します。婚礼知識や洋装、和装の技術など幅広く学び、ブライダルビューティープランナーの資格取得を目指します。	150 (5 単位)
		総合技術	必修課目において習得した基礎技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につけます。毛髪技能検定取得を目指します。	150 (5 単位)
		国家試験対策	カット、ワインディング、ウェーブの国家試験課題をマスターし、すべて技術が国家試験の手順通りに衛生的に行えるようにします。	90 (3 単位)

	コース	スタイリスト サsoonカット エステ メイク ネイル 着付け まつげエクステ	必修課目において習得した基礎技術を 基に、さらに発展させた高度な技術を 身につけ、それぞれのコースで認定資 格取得を目指します。	60 (2単位)
合 計				2,010 (67 単位)

<衛生専門課程 美容修得者理容科>

課 目		内 容	時間数(単位数)
必修課目	理容技術理論	理容器具の種類や正しい使用方法を理解し、実践の作業に即して理容の技術理論を学びます。	120 (4 単位)
	理容実習	理論をふまえた上で、カット、シャンプー、シェービング、ワインディングなど基礎から応用まで幅広く技術を身につけます。	690 (23 単位)
選択課目	総合技術	必修課目において習得した基礎技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につけます。	120 (4 単位)
	国家試験対策	カット、シェービング、セットの国家試験課題をマスターし、すべて技術が国家試験の手順通りに衛生的に行えるようにします。	90 (3 単位)
合 計			1,020 (34 単位)

<衛生専門課程 理容修得者美容科>

課 目		内 容	時間数(単位数)
必修課目	美容技術理論	美容器具の種類や正しい使用方法を理解し、実践の作業に即して美容の技術理論を学びます。	120 (4 単位)
	美容実習	理論をふまえた上で、カット、カラーリング、ワインディングなど基礎から応用まで幅広く技術を身につけます。	690 (23 単位)
選択課目	総合技術	必修課目において習得した基礎技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につけます。	120 (4 単位)
	国家試験対策	カット、ワインディング、ウェーブの国家試験課題をマスターし、すべて技術が国家試験の手順通りに衛生的に行えるようにします。	90 (3 単位)
合 計			1,020 (34 単位)

課目名	関係法規・制度			
単位(時間)	1単位(30時間)		授業方法	講義
実施方針	理容師・美容師の業務に関係する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解させ、あわせて、公衆衛生を担う理容師・美容師の社会的責務、職業倫理について、自覚を促すこと。理容・美容の業務に関する規定内容を正確に理解させるとともに、衛生法規が、理容業・美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させること。			
授業内容 計 画	時間	内 容	時間	内 容
	1	社会生活における法の役割	1	養成施設
	1	人と社会生活・法とは何か	1	試験
	1	法の形式・憲法・条約・法律	1	免許登録
	1	命令・自治法規	1	義務
	1	衛生法規の概要(小テスト)	1	業務停止(小テスト)
	1	附属法令	1	免許取消・再免許
	1	衛生行政の意義と歴史	1	管理理容師・管理美容師
	1	生活衛生行政	1	理容所・美容所
	1	行政機関・しくみ	1	開設
	1	厚生・労働省・役割(小テスト)	1	衛生措置(小テスト)
	1	保健所の役割、都道府県	1	立入検査・環境衛生監視員
	1	まとめ(概要)	1	違反者等に対する行政処分
	1	理容師法・美容師法の目的	1	審査請求
	1	施行令・施行細則	1	罰則
	1	用語の定義(小テスト)	1	関連法規(運営・衛生・顧客)
評価方法 基 準	出席率85%以上 授業への取り組み評価 試験で60点以上 60点未満の場合 再試験			

実務経験のある教員等による授業課目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》

衛生専門課程

<理容科>

課目名	単位数等	
	単位	時間
総合技術	6	180
国家試験対策	3	90
合 計	9	270

<美容科>

課目名	単位数等	
	単位	時間
総合技術	5	150
国家試験対策	3	90
合 計	8	240

<美容修得者理容科>

課目名	単位数等	
	単位	時間
国家試験対策	3	90
合 計	3	90

<理容修得者美容科>

課目名	単位数等	
	単位	時間
国家試験対策	3	90
合 計	3	90

(成績の分布を表す資料)

令和2年度

客観的な指標の算出方法					
履修課目の成績評価を点数化し、全課目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)					
学科名	理容科	学年	1	学生数	22
成績の分布					
指標の数值	59点以下	60～69点	70～79点	80～89点	90～100点
人数	0	3	8	6	5
下位1/4に該当する人数 6人					
下位1/4に該当する指標の数值 79点以下					

客観的な指標の算出方法					
履修課目の成績評価を点数化し、全課目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)					
学科名	美容科	学年	1	学生数	212
成績の分布					
指標の数值	59点以下	60～69点	70～79点	80～89点	90～100点
人数	0	86	58	41	27
下位1/4に該当する人数 53人					
下位1/4に該当する指標の数值 69点以下					